

平成27年度次世代育成支援(子育て支援)行動計画継承分実績報告

| 表 | 支援事業名 | 支援事業の内容 | 平成27年度の取り組みの状況 及び事業実績 | 達成度 | 評価 | 担当課 |
|----|-----------------|---|---|-----|---|--------|
| 28 | 防犯啓発活動 | くらし安全安心指導嘱託員を配置し、青色防犯パトロール車による防犯パトロールの実施や専門指導員による子どもを対象とした防犯教育の実施に努めます。 | 月曜日～金曜日の平日に市職員(くらし安全安心指導委託員)が市内パトロールを実施した。 | 4 | 防犯パトロールについては今後も実施回数等の充実に努める必要がある。 | 市民協働課 |
| | 防犯灯の設置・管理 | 犯罪抑止の観点から防犯灯の設置・維持管理を行っており、夜間の交通安全と防犯に努めます。 | 防犯灯を120基新設した。 防犯灯の修理を151件実施した。 | 4 | 今後も効率的な防犯灯の設置・管理の充実に努める。 | |
| 29 | 子どもの交通安全教育 | 小学校等において、交通安全教室や自転車乗り方教室を実施し、子ども自身の交通安全意識の高まりに努めます。 | 市内の幼稚園・保育園での交通安全教室を20回実施した。(参加幼児 1,892人) 小学4年生への自転車乗り方教室を11回(市内全小学校)実施した。(参加児童 1,043人) | 4 | 交通安全教室等を通じ、交通安全意識の高揚と事故防止を図るため、今後も事業展開に努める。 | |
| | 学童交通安全指導員の配置 | 通学路に学童交通安全指導員を配置し、子どもの交通安全指導等に努めます。 | 学童交通安全指導員(8名)により、登下校時の児童・生徒の交通安全の指導を行った。 | 4 | 今後も学童交通安全指導員による交通安全指導等を行うことにより、子ども・歩行者の交通安全の確保と交通安全意識の高揚を図る。 | |
| 27 | 小児医療費助成制度 | 小児の健康の増進に資する事を目的に、小児にかかる医療費の一部を助成し、その健全な育成支援を図ります。 | 受給者数:11,688人 (平成28年3月末現在) | 4 | 小児の健康の増進、健全な育成に有効。平成26年10月1日から、対象年齢を小学校6年生までに拡大。 | 医療課 |
| 24 | 児童相談 | 親の抱える育児上の疑問・不安・心配事に対し、専門相談員を配置し、適切に相談に応じ、関係機関と対応していきます。 | 平成27年度専門相談員:4名 平成27年度相談件数 :279件 (昨年度より+42件) | 4 | 相談件数は昨年度と比較して42件増加しており、今後も増加が予想される。研修等を通して相談員の能力向上に努め、相談内容の充実に努める。 | 子ども政策課 |
| 31 | 座間市要保護児童対策地域協議会 | 関係者・関係機関による座間市要保護児童対策地域協議会を開催し、必要な支援のための連絡調整を行い、児童虐待の防止と迅速な対応に努めます。 | ・実務者会議、代表者会議を開催し、児童虐待の防止と迅速な対応に努めた。 ・ケース検討会議を随時開催し、児童虐待の防止と迅速な対応に努めた。 ・児童虐待防止月間にあわせ、パネルとざまりんに虐待防止のたすきをかけ展示した。また防災チョコットとアルミシートとフリクションマーカーを児童虐待防止啓発講演会のチラシに付けて配布した。 ・児童虐待防止啓発講演会を開催した。 | 4 | 座間市要保護児童対策地域協議会の中で連携しながら、虐待等への対応を行っていく。また、庁内をはじめ、関係機関に要保護児童地域対策協議会の理解を深め啓発を続ける。 | |

資料6

| 表 | 支援事業名 | 支援事業の内容 | 平成27年度の取り組みの状況 及び事業実績 | 達成度 | 評価 | 担当課 |
|----|------------------|--|--|-----|--|--------|
| 32 | 母子家庭自立支援給付金事業の推進 | 母子家庭自立支援教育訓練給付金、母子家庭高等技能訓練促進費の給付により、雇用の促進を図ります。 | ・自立支援教育訓練給付:1件(ヘルパー) ・高等技能訓練促進費:3件(正看) | 5 | 公費負担の増額により、利用者の負担軽減が図れた。 | 子ども育成課 |
| | 母子家庭等日常生活支援事業の推進 | 疾病や就労支援のために、一時的に生活援助や保育サービスが必要な家庭に対し、家庭生活支援員を派遣します。 | ・派遣回数:13回 | 4 | 支援員の派遣により、ひとり親家庭の生活安定に寄与できた。 | |
| | 母子父子自立支援員による相談 | 他の関係機関と連携しながら、子育てや生活、就労などのさまざまな分野の総合窓口として相談に対応します。 | ・相談件数;母子1,123件、父子23件 | 5 | 個々のケースに応じて、問題の解決に必要な情報提供や助言を行った。 | |
| 26 | 休日保育事業 | 日曜日や祝日も勤務する保護者のための「休日保育」の充実を目指します。 | 日曜日及び祝祭日の8:30~18:30まで、市内1園で実施し、年間延べ225名の利用がありました。 | 5 | 当初見込み数210名を上回る利用がありましたが、滞りなく実施しました。今後も保護者等のニーズを見極め、更なる充実を図っていきます。 | 保育課 |
| 30 | 街頭補導活動 | 青少年の非行防止のため、専門補導員による毎日の街頭パトロールや青少年補導員の地区街頭パトロール等を実施します。また、子どもの健全な成長を支えるため街頭キャンペーンを実施します。 | 青少年専門補導員および青少年補導員による街頭パトロールを計531回実施し、31件の補導、719件の声かけを行った。 市民ふるさとまつりでの街頭キャンペーンでは非行防止啓発パンフレットおよびクリアファイルを2,000部配布した。 | 4 | 夏休み期間や中学校卒業式など必要に応じてパトロールを強化して実施することができた。 非行防止啓発キャンペーンについては引き続き、危険ドラッグやSNSのトラブルなど、少年をとりまく現在の社会環境を反映させたパンフレットを作成していく必要がある。 | 青少年課 |
| | こども110番の家 | 不審者からの声かけ、わいせつ、つきまとい、ちかん行為などから子どもを守る緊急避難場所として「こども110番の家」を充実し、子どもが被害者となる犯罪の防止に努めます。 | 広報や市HPにて、こども110番の家について周知を図りながら、青少年健全育成連絡協議会の会議等で各地区の現状について情報交換を各年2回行った。 | 4 | 登録件数についてはやや増加傾向にある。今後も関係団体との連絡を密にし、劣化破損した看板の交換など、継続的に取り組む必要がある。 | |
| 24 | 新生児訪問指導 | 身体的・精神的に不安定な状態にある産婦及び新生児に対し、保健師及び助産師が家庭訪問し、新生児の発育及び育児上必要な事項や日常生活全般の保健指導を行います。 | 実人数:350人 述べ:350人 | 4 | 心配事がある産婦には適切な時期にフォローする必要がある。 | 健康づくり課 |
| | 乳幼児訪問指導 | 育児支援が必要な親子に対し、保健師が家庭訪問を行い、日常生活全般の保健指導及び栄養指導等を行います。 | 実人数:190人 延人数:195人 | 4 | 適切な時期に訪問を実施し、育児支援を計る必要がある。必要時、関係機関と連携しながら同行訪問している。 | |

資料6

| 表 | 支援事業名 | 支援事業の内容 | 平成27年度の取り組みの状況 及び事業実績 | 達成度 | 評価 | 担当課 |
|----|---|--|---|-----|---|--------|
| 24 | 妊婦相談 | 身体的・精神的に不安定な妊婦に対し、保健師が電話等で日常生活全般の保健指導を行います。 | 窓口にて相談:147人 電話相談 :16人 訪問 :23人 | 4 | 母子手帳発行時、妊婦の相談にはその場で応じている。母子健康手帳発行が市役所のみとなったため、タイムリーに相談につながっている。 | 健康づくり課 |
| | 育児相談 | 市民健康センターを中心に市内5か所で、身体計測と乳幼児期に育児上起こる心配・疑問・問題点に対し相談を受け、母親が自信と主体性を持って育児できるよう支援します。 | 実施回数 :28回 実人数 :433人 保健師相談者数:305人 栄養士相談者数:287人 歯科相談 :92人 延人数 :1,038人 | 4 | 市民健康センターでの歯科相談・予防接種相談・発達相談(障がい福祉課事業同時開催)が定着し、充実してきている。また、子どもの身体計測の機会としての利用も定着してきている。 | |
| 27 | 母親父親教室 「ハローベビークラス」 | 妊娠18～35週の初妊婦とその夫を対象に4日間コースの教室を開催します。妊娠中の生活、歯の話、栄養、お産の流れ、産後の過ごし方、妊婦体操、揺さぶられ症候群、沐浴、妊婦疑似体験等を実施します。教室を通して、友達作りと出産・育児のイメージをもつことを目的としています。 | 年間6コース 参加者:妊婦 実人数:123名(延べ431名) 夫 実人数:89名(延べ114名) | 4 | 平成26年度まで参加者減少が課題だったが、事業名の変更等工夫し、参加者を増やすことができた。教室内では育児中の孤立を防ぐため、参加者同士の交流に努めた。 | |
| | 離乳食教室 「赤ちゃん教室」 生後5～6か月児 「もぐもぐ教室」 生後7～8か月児 | 概ね生後5～8か月の赤ちゃんを持つ親を対象に、子どもの発達に応じた離乳食のすすめ方や、育て方について、知識と理解を深められるようにします。 | 「赤ちゃん教室」…実施回数:12回、参加人数:保護者175人、児166人、合計341人 「もぐもぐ教室」…実施回数9:回、保護者:128人、児:124人、合計:252人 | 4 | 参加者減少が課題となっていたが、周知方法を工夫し参加人数は横ばいとなった。講話では、離乳食の話だけではなく、発育・発達、予防接種についても交え、幅広い知識の普及に努めた。 | |
| | 2歳児歯科健康診査 | むし歯予防の生活習慣が確立する2歳児を対象に健診・教育、予防処置を行い、歯を通して生活を見直す機会とします。 | 実施回数:12回 対象者数:1,024名 受診者数:834名 | 4 | 対象者全員に個別通知を開始し、受診率が向上した。次年度はより受診しやすい環境を整える。 | |
| | 親子相談 | 行動発達、言語発達や子どもへのかかわり方について心配のある親子に対し相談を受け、適切な指導を行い親の不安を軽減するとともに子どもの発達を促す助言をします。 | 実施回数:22回 参加者 :37名 | 4 | 引き続き相談後の適切な処遇を検討し、子どもの発達を促す支援を行う。 | |
| | 乳幼児フォロー教室 「わくわく教室」 (1歳6か月児) 「すくすく教室」 (3歳6か月児) | 親子遊びなどの体験を通して幼児の精神発達に大きな影響を及ぼす親子関係を豊かにし、健全な発達を促す支援をします。 | 「わくわく教室」…実施回数 :23回 参加実人数:20人 児延べ人数:99名 親延べ人数:104名 「すくすく教室」…実施回数 :18回 参加実人数:20人 児延べ人数:67名 親延べ人数:67名 | 4 | 障がい福祉課と定期的に会議を開催することで支援の継続性を図っている。教室卒業後も安心して育児ができるよう支援する。 | |

資料6

| 表 | 支援事業名 | 支援事業の内容 | 平成27年度の取り組みの状況 及び事業実績 | 達成度 | 評価 | 担当課 |
|----|---------|--|---|-----|---|--------|
| 27 | 出生連絡票受理 | 出生状況、里帰りの有無等連絡票にて把握し、新生児訪問や産後うつ病等について説明、紹介します。この連絡票を元に新生児訪問の連絡や相談ありと記載のある時に、電話等にて相談を受けます。 | 963件 | 4 | 母子の健康状態を把握し早期に訪問事業に繋げるために、より多くの提出を推進する。 | 健康づくり課 |
| | 産婦新生児訪問 | 保健師・助産師が家庭訪問し、子どもの発育状態を観察した上でその母子に合った授乳方法等について支援します。 | 実人数:350人 延べ :350人 | 4 | 心配事がある産婦には適切な時期にフォローする必要がある。 | |
| | 乳幼児健康診査 | 4か月児健康診査…受診者に対し、集団で離乳食開始に向けての話をします。 2歳児歯科健康診査…受診者に対し、集団で飲み物やおやつのとりが歯に与える影響などを伝え、良い生活習慣が身につくよう支援します。 4か月児、1歳6か月児歯科健康診査、3歳6か月児健康診査…個別栄養相談の機会を設け、子どもの発育、生活習慣、食の自立等個々の家庭に合わせて支援します。 8～10か月児健康診査…個別健診のため、健診票に栄養に関する相談事項が記載されている場合、電話にてフォローを行います。 | 4か月児健康診査…ごっくん離乳食講座受講者 978名 2歳児歯科健康診査…飲み物やおやつのとり方などの集団指導771名。 各乳幼児健診での個別栄養相談…4か月児56名、1歳6か月児歯科健康診査109名、3歳6か月児健康診査73名 8～10か月児健康診査…栄養に関する相談46名 | 4 | 離乳食の開始時期に近い4か月児健診や間食が増えてくる時期の2歳児歯科健診では、集団指導を行い、基礎的な知識の周知に努めた。 また、すべての健診において、個別でフォローが必要と判断された場合、個別の栄養相談で支援を行った。引き続き、フォローが必要な母子に適切な支援をする必要がある。 | |
| | 未熟児訪問指導 | 出生体重が2,500g未満の未熟児及び養育医療申請児に対し、日常生活全般の保育指導及び育児支援を行います。 | 実人数:73名 延べ :87名 | 4 | 引き続き、早期の訪問、要支援者には適切なアプローチを行う必要がある。 | |
| | 未熟児支援教室 | 出生体重が2,500g未満の未熟児及び養育医療申請児、その養育者に対し日常生活全般の保育指導及び育児支援を行います。 | ぴよぴよ教室(未熟児)実人数19名(延べ40名) チェリー教室(多胎)実人数8名(延べ20名) | 4 | 参加者は、増えており、参加者同士の交流を深められた。今後も教室参加を促し、支援が必要な児に対しては医療機関や他課と連携し継続的に支援する。 | |